

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

新潟市の公民館改革への取組み(その1)「公民館改革研修」
丸山 正(新潟市中央公民館 館長補佐)

- 4.5 **トピックス** 公民館月報編集委員会開催
- 3 **視点** 一貫した教育方針で子どもをはぐくむ
- 3 **ひろば** 公民館と社会性
- 6 **実践記録シリーズ** 団塊世代の知識・経験を地域社会に還元するためのきっかけづくり～団塊世代等社会参加促進モデル事業について～
- 7 **サークル交流** 音楽に合わせてステップ! ストレス解消(新潟市) / 五・七・五の指を折りながら(燕市)
- 7 **素顔拝見** 高橋 佳広さん(村上市) / 水戸部吉成さん(聖籠町)



「霧氷の輝き
(平成21年度四季彩芸術展大賞作品)」
妙高市

表紙解説

妙高市では「四季彩」と題して、妙高山麓に広がる周辺風景や伝統行事など、妙高の四季の魅力を題材とした絵画、写真の芸術展を毎年開催しています。

◆平成22年度 妙高芸術祭四季彩芸術展

期間：10月23日(土)～10月31日(日) 会場：妙高高原メッセ

公民館月報編集委員会開催
会場：新潟市中央公民館

今年度の第一回「公民館月報」編集委員会が、七人の委員全員が参加して、九月十日(金)に新潟市中央公民館で開催されました。

今回は、今年度前期九月までの計六回の月報発行を振り返ると共に、後期の発行計画を検討するためのものです。特に見開き二ページで連載している「特集記事」のコーナーのテーマと執筆依頼者の検討を主に行いました。

約二時間にわたる会議は発言が途切れることなく活発な意見交換がありました。

主な発言は

- ・新潟市の公民館改革は全国でも注目されている。
- ・三条市長の公民館重要視はおもしろい。
- ・「限界集落」への取組はテレビで取り上げられた。
- ・NPOとの関わりなどもおもしろい。

町づくりに関わった事例はどうか。

元気で頑張っている人を取り上げたい。

固い内容から読みやすいものなどの意見が出ました。後期の特集テーマと執筆担当予定は次のとおりです。



第1回編集委員会

月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
特集テーマと執筆担当予定	新潟市公民館改革 その①「改革職員研修」 新潟市中央公民館	新潟市公民館改革 その②「改革フォーラムと改革宣言」 新潟市中央公民館	ニュースポーツ 「スリッパ卓球」 新潟市小須戸地区公民館	「限界集落と公民館」 十日町市中央公民館	「婦人学級から出前学級へ」 上越市公民館	「来年度の展望」 村上市中央公民館

また、特集記事以外の意見交換では

・「月報」の発行部数と単価についての質問があり、各月号の発行部数は千三百部。単価は百五十円であり、各市町村の財政状況から単価の値上げが難しいことや売上げによる利益がほとんどない状況が事務局から説明されました。各市町村や個人の購読増に期待したいところですが。

次回の編集委員会は来年二月に開催予定です。編集委員は九月の月報でお知らせしたとおり、各地区の代表で構成されています。「特集記事」をはじめ記事の内容についてのご意見を是非お寄せください。

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行
いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

一貫した教育方針で子どもをはぐくむ



糸魚川市教育委員会 ともども課 課長 轟本 修一

糸魚川市は、本年四月より「**ともども課**」を新設し、「〇歳から十八歳までの一貫した教育方針^(※)」のもとで、日本の子どもをはぐくむシステムづくりを進めています。

子どもの育ちや学びは常に連続し一体的なものです。このことを踏まえて、子どもの発達段階にふさわしい連続性を重視した一貫した教育の推進を目指しています。

一貫教育方針の中核には、「**健やかな体の育成(体育)**」「**豊かな心の育成(徳育)**」「**確かな学力の育成(知育)**」

糸魚川市の地、夢や目標に向かって学び続ける子どもの瞳が、ヒスイのように輝くよう、市民総ぐるみで熱意をもって応援していくシステムが、今動き始めています。
(※市のホームページを参照)

糸魚川市は、本年四月より「**ともども課**」を新設し、「〇歳から十八歳までの一貫した教育方針^(※)」のもとで、日本の子どもをはぐくむシステムづくりを進めています。

子どもの育ちや学びは常に連続し一体的なものです。このことを踏まえて、子どもの発達段階にふさわしい連続性を重視した一貫した教育の推進を目指しています。

一貫教育方針の中核には、「**健やかな体の育成(体育)**」「**豊かな心の育成(徳育)**」「**確かな学力の育成(知育)**」

糸魚川市の地、夢や目標に向かって学び続ける子どもの瞳が、ヒスイのように輝くよう、市民総ぐるみで熱意をもって応援していくシステムが、今動き始めています。
(※市のホームページを参照)

H O T N E W S

掲 示 板

ホームページの開設準備中

現在、公民館連合会のホームページは開設されていません。県民や公民館利用者・関係者の公民館活動等への情報提供の必要性が高いことから、このたび事務局が「新潟県公民館連合会」ホームページを開設することにしました。

その主な内容は下記の予定です。

- ① 公民館連合会の組織と目的
 - ・目的
 - ・役員組織一覧
- ② 市町村公民館情報
 - ・県内市町村公民館所在地、電話、E-メール
 - ・市町村事業紹介、情報紹介
- ③ 主要事業
 - ・県公民館大会案内、開催予定情報
 - ・各種会議開催情報
- ④ 公民館月報情報
- ⑤ 関係事業案内
 - ・生涯学習全般
 - ・県外主要大会情報
- ⑥ その他 必要な情報

開設の十月下旬を目指し、「県立生涯学習推進センター・学習情報課」の支援を受けて、現在開設準備中です。

公民館月報11月号(11/15発行予定)で開設のお知らせをする予定です。開設後は、市町村公民館情報を中心に定期的に更新していきます。

公民館と社会性

胎内市公民館運営審議会委員 武田周一郎

公民館は片時も休むことなく色々な人が出入りする。公民館の自主活動はもちろんあるが、大部分は公民館の所属サークルの活動だ。

近年どうも誤解されているのが、公民館はサークルの活動場所を貸す所という認識だ。確かに公民館はサークルに場所を提供している。しかし、公民館の目的としている所はここではない。生涯学習を通して人間力の強化、地域の強化、そして行政と市民との協働作業の接点を探る上でも重要な場所である気がする。

そこで大切になるのが、行政地域入り交じって、顔や名前わかる人間関係を作る。



いかに構築、広めていけるかであろう。

仲間である人の顔がわかりそしてそれが見えることによつて、人間は安心と自信がみなぎってくるものがある。

人間が人間であるために必要不可欠なこと、人類が発展してきた理由である「社会性」の大切さを、公民館活動を通じて今一度見つけ直すことが今必要であろう。



革への取組み(その1)

「現代に公民館が追求すべきこと」(3班)

- ・テーマに沿ったグループワーク
7月上旬～7月中旬(第2回研修)
- ・テーマに沿ったグループワーク
9月4日(土)にいがた公民館改革フォーラム
- ・「新潟市公民館改革宣言」発表
- ・研修事例発表
- ・パネルディスカッション
「公民館改革の意義、その実現に向けて」

【各班の研修】

2 研修班・講師・テーマ

班	区	専任講師	テーマ
1	北 江南 秋葉	秋田大学准教授 原 義彦氏	3年後の公民館を描く (参加者 36名)
2	東 中央 西	千葉大学教授 長澤 成次氏	公民館事業の課題解決 のための方策を考える (参加者 52名)
3	南 西蒲	東北大学准教授 石井山 竜平氏	公民館が地域にとって、 より良い意味のある教育 機関であるためには? (参加者 51名)

* 班分けは、地域コミュニティの特性に合わせて、3班集体とした。

1班は、秋田大学教育文化学部准教授原義彦(はら よしひこ)先生にご指導をいただいた。主に北区・秋葉区・江南区に勤務する職員が中心となり、7グループに分かれて「3年後の公民館を描く～公民館大カイズウ計画～」をテーマに地域や公民館の抱える問題等についてグループ討議をした。

2班は、千葉大学教育学部教授長澤成次(ながさわ せいじ)先生にご指導をいただいた。主に東区・中央区・西区に勤務する職員が中心となり、10グループに分かれて「地域づくりやコミュニティ協議会との連携・支援等を進めるために公民館がどんなことをすればいいのか」現在実施している事業を見直し、目指すべき事業の事例をグループごとに考えた。

3班は、東北大学大学院教育学研究科准教授石

井山竜平(いしいやま りゅうへい)先生にご指導をいただいた。主に南区・西蒲区の職員を中心に研修を行い、石井山先生の講演からスタートし、地域との関わり、人との関わりを「気づき」として、全国の事例を紹介していただいた。その内容を10グループに分かれ討議を重ね、研修後の素直な思いを「個人の気づき」から「私たちの気づき」に変えた。その思いを「2010バージョンアップ」のタイトルで個人個人が文集としてまとめた。

* 各班の研修成果は、186ページの冊子にまとめ、9月4日のフォーラムの際に配布した。

【まとめ】

この度の職員研修は、かつてない139名の規模で実施した。あまりにも多い職員でグループワークを行うため、職員を3班に分けなければならなかった。そのため、まだ顔を合わせたことの無い職員も多くいたが、研修結果をまとめるため何度も集まりグループワークを行うなどした結果、職員同士のコミュニケーションを深める良い機会となった。

日程調整においては、準備期間が無かったため講師の先生方に無理をきいて頂いた。千葉大学の長澤先生と秋田大学の原先生との打合せは、私と各班の研修責任者の二人でそれぞれの先生方の大学まで出向き長時間に亘り研修の目的を話させていただいた。東北大学の石井山先生とはなかなか日程調整がつかず、事前にお会いして趣旨説明を行うことができなかつたため、電話や電子メールでの打合せを頻繁に行い、研修直前まで打合せさせて頂いたことにより、より深い情報交換ができ、大変有意義であった。

2005年の合併後、新潟市は面積も広くなり、端から端まで車で約90分かかる、各館の地域性も都市部・新興住宅地域や農村地域など様々である。それぞれに合った事業展開をどの様に行うか公民館職員の力量が試されている。

公民館改革研修は、中間発表を終えほっと一息ついたところである。これから来年3月の最終発表に向けて準備を急いでいる。

「次回のテーマは、公民館改革フォーラムと改革宣言」です。

特集



新潟市中央公民館
館長補佐
丸山 正

新潟市の公民館改革 「公民館改革研修」

【新潟市の状況】

新潟市は、2005年に14市町村が大合併をして2007年4月には日本海側初の政令指定都市となり8つの区が誕生した。面積は726.10平方キロメートル(東西42.4キロメートル、南北34.9キロメートル)、人口804,089人、世帯数312,179世帯(平成22年8月末現在)となっている。

【公民館に期待されていること】

今、全国的に「曲がり角の公民館、岐路に立つ公民館」、「社会教育の終焉」などといわれている。しかし、この言葉は25年前からささやかれていた。新潟市でも例外ではない。新潟市では政令市として、新しいまちづくり、地域づくりに取り組んでいる。新潟市が目指すまちづくりや地域づくりに、公民館の持っているノウハウや力量が役立つと期待されてきている。しかし、今の公民館の事業のやり方はこのままで良いのだろうかと改めて問い直してみる機会とした。

【公民館あり方懇談会】

公民館あり方懇談会は、2005年14市町村の広域併後これからの公民館の方向性を各分野の有識者から意見を頂くために開催された。委員は8名で構成され、本市の公民館が、今後、地域と協働し、まちづくりを進めていく中で果たすべき役割について協議し、公民館の今後のあるべき姿を示すことを目的に開催された。会議は、3回開催され、職員の方針性について次のように示された。
・職員の方針は、地域づくり、人づくり(教育)の視点を持った専門職員が必要。
①行政課題に対して、学びの視点から住民と行政を結ぶコーディネーターの役割を果たすべき。
②職員が求められている「専門性」は、指示されて動くのではなく、自ら課題を把握し、解

【公民館改革 職員研修】

今回の研修は、公民館事業に関わる市内8区25館の全職員を対象に実施し、139名と、今だから無い規模になった。全職員が対象となったため、事業等で日程が合わない職員は自分の地域外の班に合流した。
班編成は個人個人の意見が十分出せるよう、同年代を中心に、同じ館の人が一緒にならないように配慮した。

1 開催趣旨

公民館には、従来から「まちづくり」、「地域づくり」、「人づくり」の使命があった。しかし、今、私たち公民館職員には、その意識が薄れているのではない。「公民館のあり方懇談会」では、これからの公民館のあるべき姿が示された。新潟市の公民館は、このままでいいのか。
現在、行っている事業について

- ・ 昨年の事業を漫然と繰り返ししていないか。
- ・ 沢山人が集まるだけで満足していないか。
- ・ この事業の目的は何か。
- ・ 職員同士で事業の目的を議論しているか。
- ・ この事業は、次につながっているか。

といった視点から、事業目的を明確化し、今後、公民館事業を「まちづくり」、「地域づくり」、「人づくり」に向けてどのように進めていくべきか、職員自身が検証するための機会とすることとし、目指す方向性を「①地域が何に悩みどんな課題を抱えているか把握する。②共に取り組み、学び合うネットワークづくりを進める。③地域の絆を取り戻し、これからの地域づくりを担う。」の3つに絞り込んだ。

2 研修スケジュール

6月上旬～6月下旬(第1回研修)
・ 中央公民館長からの趣旨説明
・ 講師の基調講演

「公民館職員の地域づくりに果たす役割」(1・2班)

実践記録 151 シリーズ

団塊世代の知識・経験を地域社会に還元するためのきっかけづくり ～団塊世代等社会参加促進モデル事業について～

三条市 市民部生涯学習課

1 はじめに ～「団塊の世代」とは～

「団塊の世代」とは1949年までに生まれた世代であり、作家の堺屋太一が1976年に発表した小説『団塊の世代』で、この世代の特異な人口構成が日本社会に大きな影響を及ぼすことが指摘されてから一般的な用語として広まりました。戦後60余年が経過した今日、日本の高度成長を支えてきた「団塊の世代」が定年退職期を迎えるなど、これまで企業・経済活動の核となって活躍した世代が地域社会に帰ってきています。

2 事業に取り組むきっかけ

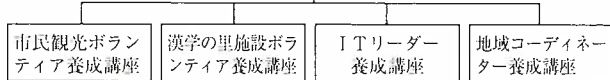
三条市では、長年、企業活動等で活躍されるなど人生経験豊かな「団塊の世代」が地域社会に戻る機会を好機と捉え、市が抱えている課題や地域におけるリーダー不足といった課題を解決する一つの方策として、「団塊の世代」の社会参加と併せて市民の学習活動に還元していくことを基本理念とし、昨年度、新潟県教育委員会の「団塊世代等社会参加促進モデル事業」として取り組みました。

3 事業の全体スキーム

本事業は①市民観光ボランティア養成講座、②漢学の里施設ボランティア養成講座、③ITリーダー養成講座、④地域コーディネーター養成講座の4講座から構成され、これからの地域社会が求めるボランティア活動やパソコンの指導技術など、受講生自らが持つ資質や能力を講座の受講を通して高めるとともに、新潟県内の先進事例からも学ぶなどスキルアップのためのメニューを揃えました。

「団塊の世代」の社会参加促進 + 学びの成果の社会還元!

団塊世代等社会参加促進事業 = 新潟県



4 各講座の概要

(1) 市民観光ボランティア養成講座

江戸時代の末に活躍した木彫りの名工石川雲蝶は、県内各地に傑作を残しており、当市でも法華宗総本山本成寺や石動神社にその作品を見ることができます。この価値ある彫刻を通じて地域の魅力を高める市民観光ボランティアを養成する講座です。

(2) 漢学の里施設ボランティア養成講座

三条市は、「大漢和辞典」の編纂者であり、漢

学における世界的権威であった名誉市民諸橋轍次博士の出身地であり、博士の業績を後世に伝え顕彰する「諸橋轍次記念館」があります。来館者に博士の業績はもちろん、温かい人柄やエピソードなどを伝える”伝道師”を養成する講座です。

(3) ITリーダー養成講座

一人でも多くの市民からパソコンに親しめるように公民館では初心者パソコン講座を開催しています。初心者でも分かりやすく操作ができるよう指導できる市民講師を養成する講座です。

(4) 地域コーディネーター養成講座

学校からの要望に応じて地域の人材と学校とのマッチングをしたり、また自らが主体となって活動できるスキルを学ぶなど、地域における人材を養成する講座です。

5 講座終了後の活動

4つの講座終了後、それぞれの講座修了生は石川雲蝶ガイドイベントを企画・運営をしたり、諸橋轍次記念館の来館者へのガイド、また、各公民館で実施するパソコン講座で講師を務めたり、地域コーディネーターは小・中学校総合学習における講師紹介を行うなど地道に活動を続けています。



修了生(ボランティアガイド)による案内



公民館パソコン講習で活躍する修了生

6 まとめ

今後とも少子高齢社会が進み、自治体やコミュニティも効率的で合理的な地域経営が求められています。「団塊の世代」が培ってきた知識・経験を一つの経営資源と捉え、“元気なシニア”が生き生きと活躍できる機会を創出し、併せて市民も学ぶことのできる「知の循環型社会」を実現することが、自治体と市民との協働につながり、ひいてはこれからの生涯学習・公民館講座を運営していく上での重要な鍵となるのではないのでしょうか。

三条市市民部生涯学習課・公民館
〒955-8686 三条市旭町2-3-1
Tel 0256-34-5511 Fax 0256-32-8391

お知らせ

- 第三回「全国公民館コンクール」(全国公民館連合会主催)が開催されます。公民館の広報活動の向上のために応募してみませんか。
- 【実施要項】
- 主催 社団法人全国公民館連合会 全国公民館振興市町村長連盟
 - 応募方法
 - 次の必要な事項を記載の上、公民館報の最近3号分を、各10部ずつ全国公民館連合会までご提出ください。
 - ①応募公民館名
 - ②連絡先(住所・電話番号・ファックス・担当者名)
 - ③公民館報名
 - ④発行の目的(100字程度)
 - ⑤発行部数
 - ⑥公民館対象区域内外帯数
 - ⑦年間発行回数
 - ⑧年間経費(発行にかかる経費のみ。人件費は除く)
 - ⑨製作方法(例:印刷会社に原稿を渡して製作、全て職員で制作等)
 - ⑩制作者(例:住民らで構成された編集委員会が制作等)
 - ⑪製作にかかわっている人数
 - ⑫主な記事の企画意図(例:なるべく住民を登場させる、地域情報を盛り込む等)
 - ⑬その他、特記事項(例:企業の広告を入れている、希望者には有料で配布等)
 - 応募基準
 - (1)応募できる公民館は、各都道府県公民館連合組織、または市町村長が全国公民館振興市町村長連盟に加盟していること。
※加盟していれば、「公民館」という名称が付いていなくても応募可能です。
 - (2)応募作品は、次の要件を満たしていること
 - ①公民館(もしくは公民館で組織した広報委員会等)によって企画されていること。
 - ②平成21年10月以降に、複数回発行されていること。
 - 賞の種類(予定)
 - 最優秀賞 1点 副賞10万円相当の賞品
 - 優秀賞 数点 副賞5万円相当の賞品
 - 優良賞 数点 副賞3万円相当の賞品
 - 審査 応募された作品は、審査委員の審査を経て入賞等を決定
 - 締め切り 平成22年11月22日(月)(必着)
 - 発表
 - 審査結果は、平成23年1月頃に公表いたします。
 - 入賞した公民館及び47都道府県の各公民館連合組織に通知するとともに、全国公民館連合会のホームページ、「月刊公民館」に掲載します。
 - 審査のポイント
 - (1)企画
 - 企画の切り口、記事の工夫等
 - (2)文章
 - 表現力、読みやすさ、表記の統一等
 - (3)デザイン・レイアウト
 - 紙面構成の見やすさ、親しみやすさ、文字の見やすさ、写真の配置、掲載写真等
 - (4)発刊状況
 - 編集状況、発刊頻度等
 - (5)その他
 - 配付方法、ユニークな発想等
 - 備考
 - (1)同じ市町村でも公民館単位で応募ができます。
 - (2)応募作品は返却しません。
 - (3)応募した作品を公表することがあります。
 - (4)なお、実施要項につきましては全国公民館連合会のホームページ(<http://kominkan.or.jp/>)でもご案内しています。
 - 応募・問い合わせ先
 - 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-8 (社)全国公民館連合会 館報コンクール係
 - 電話:03-3501-9666 ファックス:03-3501-3481
 - E-mail:zenkoren@kominkan.or.jp 担当:村上

Net work ネットワーク

平成23年度「公民館総合補償制度のご案内」

(社団法人)全国公民館連合会から平成23年度「公民館補償制度のご案内」が届きました。

県内の公民館では多数の制度利用がありますが、来年度から「職員災害補償制度」が改訂されますので注意してください。

- 改定点は
- ①補償額を変更(掛け金に変更なし)
 - ②加入タイプにE型を新設(補償額に一部変更あり)
- その他の制度に変更はありません。

総合補償制度は下記の三つで構成されています。

- ①行事障害補償制度
 - …公民館の行事参加者や利用者の事故を補償します。
- ②賠償責任補償制度
 - …公民館に法律上の賠償責任が生じた場合に補償します。
- ③職員災害補償制度
 - …職員が業務中に被った事故を補償します。
 - *いずれも付帯条件があります。
 - *問い合わせは取扱代理店
 - エコー保険サービス㈱ヘ
 - フリーダイヤル 0120-636-717



あ と が き

事務局長のつがやき
すつかり秋らしくなつて、
県内各地から「梨」や「ぶどう」
など果物の話題が多く聞かれる
ようになりました。これから本
格的になっていくようですが、
農家の知人から聞いた話では稀
とりんごの色づきが悪いと困つ
ている様子。なんでも天気が良
すぎて気温の寒暖差が少なく、
柿やりんごなどの色が出てこな
いのだとか。秋も後一ヶ月ほど。
その後は時雨れる季節がやつて
きます。なんとか「色づき」が
進んで甘くて美味しい果物でみ
んなが幸せになると良いですね。
(田原)

100年先の日本のために

水を育み国土を守る森林は、「緑の社会資本」であり、地球温暖化の防止にも大きな役割を果たしています。その恩恵を後世の人々が享受できるよう、長期的視点に立った森林づくりを推進しています。

新潟県市町村林政振興協議会
会長(村上市長) 大滝 平 正
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609